

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

## 事業名 繁殖雌牛増頭支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111 (内 2878)

E-mail: [c11437@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11437@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額: 16,000 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,000	8,000	0	0	0	0	0	0	16,000
要求額	5,000	2,500	0	0	0	0	0	0	2,500
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

飼料価格高騰や農家の高齢化に伴い廃業が進行し、県内繁殖農家戸数は20年前の4分の1にまで減少している。現在、県内の肥育素牛の自給率は5割で、半数を県外の産地(北海道、東北、九州など)からの導入に頼っている。

しかし、全国的な子牛価格の高騰に伴い、繁殖雌牛導入が困難となっており飛騨牛生産農家の経営を圧迫している。

### (2) 事業内容

国や県、市町村が実施する事業等で増頭を目的に牛舎を整備した農家を対象に、増頭分に係る繁殖雌牛の導入経費に対して一部を助成する。

これにより、生産基盤を強化し、肥育素牛の安定供給を図り、飛騨牛生産農家の経営安定を目指すとともに、“岐阜県生まれ岐阜県育ちの飛騨牛”増産を目指す。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10 定額補助

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	牛舎設置事業後の繁殖雌牛増頭に対する支援
合計	5,000	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

令和2年度策定の「ぎふ農業・農村基本計画」では、子牛の生産体制を確保し、“岐阜県生まれ岐阜県育ちの飛騨牛”増産を目指していくこととしている。

(2) 国の状況

「畜産再興プラン（令和2年3月策定）」において「繁殖雌牛増頭」を喫緊の課題とし、今後5年間に重点的に対応を図るよう、各都道府県の対応を求めている。

(3) 後年度の財政負担

令和3年度から令和7年度までの5か年。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村、JA

## 県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	繁殖雌牛増頭支援事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、地域 JA （理由）肉用牛繁殖雌牛の増頭は、市町村・JAと連携して進める必要がある。
補助事業の概要	（目的）県内肉用牛繁殖雌牛の増頭 （内容）牛舎設置事業後の繁殖雌牛増頭に対する支援
補助率・補助単価等	<b>定額</b> ・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）100 千円/頭×繁殖雌牛増頭数。ただし、交雑牛を受卵牛として利用する場合は 35 千円/頭 （理由）雌牛導入にかかる資金借り入れの際の金利相当分を補助する。
補助効果	飛騨牛素牛供給量の増加と価格安定化
終期の設定	終期 令和 7 年度 （理由）ぎふ農業・農村基本計画の目標年度である為。

（事業目標）

飛騨牛生産農家の経営安定を目指すとともに、“岐阜県生まれ岐阜県育ちの飛騨牛”増産を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1 年度末)	目標 (令和 3 年度末)	目標 (終期)
① 繁殖雌牛飼養頭数	8,210	8,650	10,000
② 飛騨牛認定頭数	9,784	9,940	10,500

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績	18,000 千円	24,720 千円	(予算額) 16,000 千円	(要求額) 5,000 千円
指標①目標	—	—	—	8,650
指標①実績	7,530	7,980	(推計値) 8,177	(推計値) 8,373
指標①達成率	%	(推計値) %	(推計値) %	(推計値) %
指標②目標	—	—	—	9,940
指標②実績	10,042	9,784	(推計値) 9,800	(推計値) 9,975
指標②達成率	%	%	(推計値) %	(推計値) 99.6%

(前年度の成果)

県内繁殖雌牛頭数は、平成30年度 7,530 頭、令和元年度 7,980 頭、令和2年度（見込み） 8,177 頭であり、着実に増加をしている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

農家の高齢化と新規就農者の不足により農家戸数が減少している。  
飼料価格の高騰や子牛不足により繁殖雌牛の購入が困難な状況にある。

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）

○：必要性が高い、△：必要性が低い

(評価)

○

飼料価格の高止まりや、高齢化による農家の廃業等により、子牛の生産頭数が減少し、飛騨牛の生産基盤を支える繁殖経営の弱体化が懸念されている状況にあり、必要性は高い。

・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）

○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている

△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

○

本事業により、農家の繁殖雌牛増頭意欲が増加し、繁殖牛舎の整備を計画する農家が増えている。

・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）

○：効率化は図られている、△：向上の余地がある

(評価)

○

農林事務所、市町村、農協が連携し、繁殖雌牛の増頭に係る取り組みを行う体制が構築されている。

(事業の見直し検討)

4年間（H28～R1）で 538 頭に対し支援を行い、減少傾向であった県内繁殖雌牛頭数が令和元年度を境に増加（前年度比+6%）に転じた。目標に向け、繁殖雌牛の増頭を安心して行える環境を引き続き支援する必要があるが、条件に適合した一部の対象については、国庫事業で対応することとした。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

**継続**・削減・統合・廃止

(理由) 4年間（H28～R1）で 538 頭に対し支援を行い、減少傾向であった県内繁殖雌牛頭数が令和元年度を境に増加（前年度比+6%）に転じた。本事業を継続することで生産基盤の強化を図るとともに、引き続き“岐阜県生まれ岐阜県育ちの飛騨牛”増産を目指す。